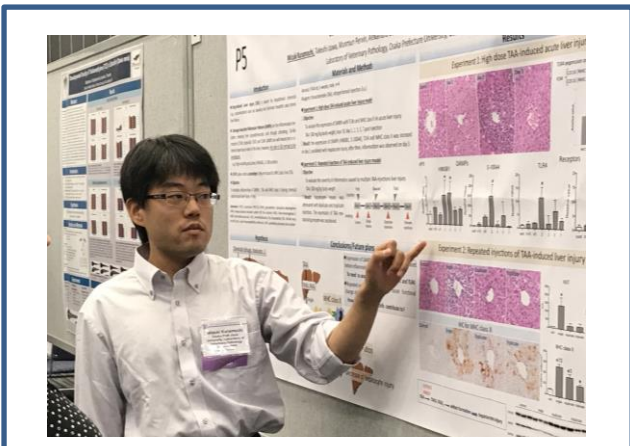


OPU Students 海外留学レポート

Study Abroad Report from the OPU students



プロフィール (Profile)

氏名 倉持 瑞樹
所属 獣医学専攻 獣医病理学研究室
学年 大学院 2年

留学先 University of Guelph, Ontario
Veterinary College

留学期間 2017. 6. 27-29.

留学レポート Study Abroad Report

カナダのケベック州にあるモントリオールで開催された、Society of Toxicologic Pathology 主催の The 36th Annual Meeting の学会への参加・発表に併せて、同国オンタリオ州にある University of Guelph のオンタリオ獣医学部のキャンパス (Ontario Veterinary College: OVC) を訪問しました。OVC と本学の間には学術交流協定が締結されています。今回の訪問は OVC の Biomedical Science 分野の Jonathan LaMarre 教授の招待を受けて実現しました。LaMarre 教授は昨年度 (2017 年 1 月 24 日-2 月 8 日) に本学の獣医学専攻のりんくうキャンパスを訪問され、OVC の紹介と miRNA に関する最新の研究内容の講演をしてくださいました。その際、私の研究についてアドバイスをいただき、かつ論文の校閲をしていただきました。また、獣医系では有名な国際雑誌である Journal of Veterinary Pathology の Chief Editor である OVC の Pathobiology 分野の Jeff Caswell 教授にもお会いし、大学施設や博士が専門とされている病理診断に関する研究内容の紹介を受けました。

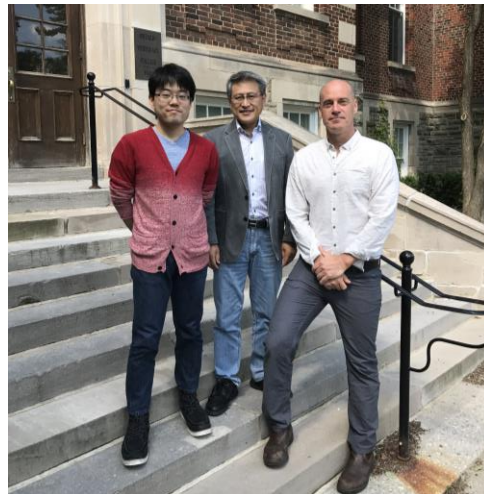
University of Guelph はトロント・ピアソン国際空港から車で約 1 時間のオンタリオ州ゲルフ市に位置する大学です。ゲルフ市街は広い畑と街路樹に閑静な住宅が並んでおり、街の中心にある教会 (Basilica of Our Lady Immaculate) をどこからでも見ることができます。

University of Guelph は街の中心からやや離れたところにあり、4 km×6 km ほどの広大な敷地を有する総合大学です。そのなかでも獣医学部である OVC は 1863 年に創設され、150 年以上の長い歴史があります。学部生は 1 学年 120 名で、教員は 200 名以上という大規模な学部構成になっているそうです。また、動物病院が併設されています。私が見学した時期はちょうど summer vacation のため学部生はあまり見かけませんでした。研究分野は 5 つの department に分かれており、それぞれの分野にレジデントや獣医以外の学生も入れる master コースと PhD コースの大学院があり、多くの院生が在籍しているとのことです。今回見学させていただいたのは Biomedical Science 分野と Pathobiology 分野ですが、Biomedical Science 分野はひとつの大きな共通の実験室を有し、各研究者や院生が共同で大型機器などの実験装置を利用しており、研究者間の横のつながりや情報交換がスムーズにできるようにみえました。Pathobiology 分野の研究室は実験をメインにする教室と、病理診断に係る教室があり、私の研究室にもあるような複数人でディスカッションが可能な顕微鏡とモニターを設置していました。動物の病気の病理学的診断の専門医である米国獣医病理認定医 ACVP の試験は大変難しくハードルが高いと言われており、その取得に向けて学生たちは勉強に励んでいました。かつせわしなく学生が行き来している臨床検査室を見るにつけ症例数の多さを実感しました。また、病理解剖室は学生が見学できるように数台のモニターと、複数の解剖台がありました。多いときには 1 日で 10 頭前後のウシを病理解剖するというので、学生の勉強のためにも、また、病理学的な検査のためにもこの広さが求められているのだと思われました。日本にはない病理解剖施設でした。

昼の時間に設定されたセミナーでは、自身の研究 ("The kinetics of damage-associated molecular patterns (DAMPs) and Toll-like receptors during thioacetamide-induced acute liver injury in rats.") の紹介をさせていただきました。前日までモントリオールの学会でのポスター研究発表で英語によるディスカッションをしていたため、自分の中である程度説明したいことは整理できており、20 分程度の発表でしたが、緊張に負けず発表はできたと思います。教員・学生合わせて 30 名ほどが参加し、熱心な質問も受けました。

OVC の動物病院では、小動物病院と大動物病院の診療室を見学させて頂きました。小動物病院は神経科や放射線科、腫瘍科など診療科が細分化されており、大動物病院も十数頭のウマを診察できるような大規模な診療所になっていました。トロント空港からゲルフまでの車で移動する間に見渡す限りの牧草地帯が何か所もあり、畜舎が多く建っていたことから、この地域での大動物に対する病院の重要性を感じ取れました。私が見学した時にはウシは見かけませんでしたが、治療中のウマや仔馬を保育するウマが入院していました。

今回の OVC 訪問は、自分のキャリアーとして、知識と経験を深めていく良い機会になりました。また、近いうちにアクティブな海外の獣医系の大学に留学したいと思っており、今回の OVC の訪問はその一歩になりました。ご支援ありがとうございました。



(Ontario Veterinary College 正面 ; 左から申請者, 山手教授, LaMarre 教授)



(教員・学生に研究紹介をする申請者)



(Basilica of Our Lady Immaculate から望んだゲルフの街並)